

教育研究等活動状況調査書《見本》

(その1)

履 歴 書				
フリガナ氏	フリガナ名	④・女	生年月日(年齢)	昭和××年△△月■日 生 (満○○歳)
学 歴				
年 月	事 項			
昭和○○年○○月	○○大学○○学部○○学科卒業			
昭和○○年○○月	中学校教諭一種普通免許 (科目:○○) 昭和○中一種普○号 (○○教育委員会)			
昭和○○年○○月	高等学校教諭一種普通免許 (科目:○○) 昭和○高一種普○号 (○○教育委員会)			
昭和○○年○○月	○○大学大学院○○研究科○○専攻修士課程修了 (○○修士)			
昭和○○年○○月	○○大学大学院○○研究科○○専攻博士課程単位取得後退学			
昭和○○年○○月	○○博士の学位取得(○○大学・学位記番号・学位論文題名を記入)			
職 歴				
年 月	事 項			
昭和○○年○○月	○○大学○○学部○○学科講師 (科目名:○○○○) (昭和○○年○○月まで)			
昭和○○年○○月	○○大学○○学部○○学科助教授 (科目名:○○○○) (昭和○○年○○月まで)			
昭和○○年○○月	(文部省) 教員資格審査 名城大学○○学部○○学科助教授 可 (科目名:○○○, ○○○…すべて記入)			
昭和○○年○○月	名城大学○○学部○○学科助教授 (科目名:○○○○) (平成○○年○○月まで)			
昭和○○年○○月	名城大学在外研究員として○○大学へ長期留学 (平成○○年○○月まで)			
昭和○○年○○月	○○県立大学○○学部非常勤講師 (科目名:○○○○) (平成○○年○○月まで)			
昭和○○年○○月	(文部省) 教員資格審査 名城大学大学院○○研究科○○専攻助教授 (修士課程) M合 (科目名:○○○, ○○○…すべて記入)			
平成○○年○○月	名城大学○○学部○○学科教授 (科目名:○○○○) (平成19年 3月まで)			
平成○○年○○月	名城大学大学院○○研究科○○専攻 (修士課程) 教授 (科目名:○○○) (現在に至る)			
平成○○年○○月	名城大学○○学部協議員 (平成○○年○○月まで)			
平成○○年○○月	名城大学○○学部○○学科長 (平成○○年○○月まで)			
平成○○年○○月	(文部科学省) 教員資格審査 名城大学大学院○○研究科○○専攻教授 (博士課程) D合 (科目名:○○○, ○○○…すべて記入)			
平成○○年○○月	名城大学大学院○○研究科○○専攻 (博士課程) 教授 (科目名:○○○) (現在に至る)			
平成○○年○○月	名城大学大学院○○研究科○○専攻主任 (平成○○年○○月まで)			
平成○○年○○月	名城大学○○学部長 (平成○○年○○月まで)			
平成○○年○○月	名城大学大学院○○研究科長 (平成○○年○○月まで)			
平成○○年○○月	名城大学評議員 (平成○○年○○月まで)			
平成19年 4月	名城大学○○学部○○学科教授 (科目名:○○○○) (現在に至る)			
現所属部署等における委員 (過去5年のもの)				
年 月	事 項			
平成○○年○○月	○○大学○○学部教務委員長 (平成○○年○○月まで)			
平成○○年○○月	○○大学○○学部入試委員 (平成○○年○○月まで)			
平成○○年○○月	○○大学○○学部将来問題検討ワーキング・グループ委員 (平成○○年○○月まで)			
現所属等における, その他の管理運営業績 (過去5年のもの)				
年 月	事 項			
平成○○年○○月	○○大学○○学部入試説明会チーフとして入試説明会を統括した。 (平成○○年○○月まで)			
平成○○年○○月	○○大学○○学部高校訪問メンバーとして○校の高等学校を訪問した。 (平成○○年○○月まで)			
平成○○年○○月	○○大学○○学部出前講義 (○○県立○○高等学校:○○について) ほか○件 (平成○○年○○月まで)			

【記入上の注意事項】

現在に至る生涯履歴を全て記入してください。

- ・博士課程を出て未だ博士号を取得していない者の学歴は、「博士課程単位取得後退学」と記入。
- ・大学の別科, 専攻科については「学歴」欄に, 研究生, 聴講生等は「職歴」欄に記入。
- ・学位, 称号の他, 弁護士, 医師, 歯科医師, 薬剤師, 看護婦, 教員等の資格についても「学歴」欄に記入。この場合, 登録番号も付記。
- ・外国における資格については正確に記入するとともに, その資格の内容について併記。
- ・外国留学については, 学生としての留学の場合は「学歴」欄に, 研究者としての留学の場合は「職歴」欄に記入。

現在に至る生涯履歴を全て記入してください。

- ・職名, 地位等についても明記。なお, 過去における大学設置・学校法人審議会 (旧大学設置審議会を含む。) の教員組織審査において教員の資格があると認められた者は, 同欄に当該教員組織審査に係る大学名, 審査の年月, 専任・兼任・兼任, 職名及び担当授業科目名 (大学院にあっては, 判定結果 (合・合・可) を記入)。
- ・「職歴」は, 各職歴について, 在職期間が明確になるように記入。なお, 現職については必ず「現在に至る」と明記。
- ・自営業, 主婦, 無職等についても省略しないで「職歴」欄に記入。
- ・大学の教員の職歴については, 主な担当科目を () で付記。
- ・担当科目に直接関係のある職歴については, できるだけ具体的に記入。(例 看護学科の教員で看護婦経歴のある者の当該看護婦時の勤務病棟等)
- ・平成19年4月の新教員組織への移行に伴う対応は, 左記または以下のように記入。

《事例》

平成19年4月	名城大学○○学部○○学科准教授 (科目名:○○○○)	(現在に至る)
平成19年4月	名城大学○○学部○○学科助教 (科目名:○○○○)	(現在に至る)
平成19年4月	名城大学○○学部○○学科講師 (科目名:○○○○)	(現在に至る)
平成19年4月	名城大学○○学部○○学科助手 (科目名:○○○○)	(現在に至る)

過去5年間の状況を記入してください。

- ・各所属部署における委員会名, 役職を記入。
- 例: 教務委員長・学生委員長・就職委員長・入試委員長など
教務委員・入試委員, 教務・入試以外の委員, 上記以外の座長, 委員など

過去5年間の状況を記入してください。

- ・学部等が必要に応じて設定した項目に応じて記入。
- 例: 一般入試問題作成委員, 推薦入試問題作成委員, 高校生を対象とした学部体験主催行事担当教員, 入試説明会等の参加, 高校・予備校訪問など

学会および社会における活動等

年 月	事 項
昭和〇〇年〇〇月	〇〇学会会員 (現在に至る)
昭和〇〇年〇〇月	〇〇学会理事 (現在に至る)
昭和〇〇年〇〇月	〇〇県〇〇審議会委員 (平成〇〇年〇〇月まで)
昭和〇〇年〇〇月	〇〇試験出題委員 (平成〇〇年〇〇月まで)
平成〇〇年〇〇月	〇〇学会第〇〇回〇〇大会〇〇分科会で座長を務める。
生涯学習, 小学校・中学校・高等学校への教育支援等 (過去5年のもの)	
年 月	事 項
平成〇〇年〇〇月	〇〇学部公開講座「テーマ:〇〇〇〇〇」の講師を務める。
平成〇〇年〇〇月	〇〇学部シンポジウム「テーマ:〇〇〇〇〇」の基調講演及びパネリストを務める。
平成〇〇年〇〇月	〇〇学部高大一貫教育において「科目名:〇〇〇〇」の講師を務める。
平成〇〇年〇〇月	〇〇市立〇〇小学校において, 「テーマ:〇〇〇〇」の講師を務める。
その他の社会貢献業績 (国際貢献, 産業支援等) (過去5年のもの)	
年 月	事 項
平成〇〇年〇〇月	外国人招聘研究員として〇〇国から〇〇〇〇氏を受入れ, 研究指導を実施。 (研究テーマ:〇〇〇〇) (平成〇〇年〇〇月まで)
平成〇〇年〇〇月	株式会社〇〇〇〇と△△△の開発に係わる技術支援を行った。(平成〇〇年〇〇月まで)
平成〇〇年〇〇月	株式会社〇〇〇〇から××××のコンサルテーションの依頼を受け, ■■■■の解決について具体的な方策を提示した。(平成〇〇年〇〇月まで)
平成〇〇年〇〇月	〇〇〇研究所との共同研究開発により, △△△△について特許を取得した。

賞 罰

年 月	事 項
平成〇〇年〇〇月	日本〇〇学会〇〇賞を受賞 (△△△△の功績について)
平成〇〇年〇〇月	〇〇〇国〇〇大学から, 名誉〇〇博士の学位を授与される。(〇〇〇〇の功績について)

職務の状況

勤務先	職名	学部, 学科等 (所属部局) の名称	勤務状況
名城大学	教授	〇〇学部〇〇学科	〇〇〇〇論 〇〇〇実習 ゼミナール 卒業研究
		大学院〇〇研究科〇〇専攻	〇〇〇〇特論 研究指導
		△△学部△△学科	〇〇〇〇論 〇〇〇〇論
××大学	非常勤講師	■■学部■■学科	〇〇〇〇論 〇〇〇〇論

上記のとおり相違ありません。

平成 年 月 日

氏 名

印

【記入上の注意事項】

現在に至る生涯履歴を全て記入してください。

- ・「学会及び社会における活動等」は, 本人の専攻, 研究分野等に関連した事項について記入。なお, 所属学会名は正確に記入。

過去5年間の状況を記入してください。

- ・公開講座・講演会等の講師(学内外を問わず), 出前講義等の生涯学習, 高大連携事業, サイエンス・パートナーシップ・プログラム, スーパー・サイエンス・ハイスクールの講師等の小学校・中学校・高等学校への学習支援事業について記入。

過去5年間の状況を記入してください。

- ・国際協力事業への参画や外国人研究者の受入れ, 技術支援・コンサルテーションの状況や共同開発による特許取得等について記入。

ない場合は, 「なし」と記入してください。

今年度の状況を記入してください。

- ・備考欄には, 開講の期を記入。(通年授業の場合は, 記入は不要。)
- ・90分授業は, 2時間でカウント。
- ・実験, 実習やオムニバス方式による授業などで, 学期の一部の期間を担当する場合は, 担当時間数を, 通年のときは30週, 半期のときは15週で除した時間数を記入。
例) 後期開講の実習で, ある教員が10時間担当する場合。
 $10(時間) \div 15(週) = 0.66 \dots \div 0.7$

(その2)

教育研究活動状況報告書

平成 年 月 日

氏 名 印

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 (教育内容・教育方法面の取組) ・教育目標の達成度(合格率)の向上	平成〇〇年〇月 ～平成〇〇年〇月	①当該教育方法を実践した科目を併記する。 <記入例> ・〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻修士課程の教授として担当の「〇〇〇〇論」(専修科目, 〇年次配当, 半期, 必修〇単位)において実践した。 ②実践例の具体的な内容について, 当該教育方法を実践したことの効果も含めて200字程度で記入する。 <記入例> ・当該科目の履修者の相当数において, 〇〇学会における論文・ポスター発表を促進したところ, 多数の学生が意欲的な取り組みを展開し, うち, 2名は学会において最優秀賞1名, 奨励賞1名の受賞者を輩出することができた。この波及効果により, 継続的に学会発表等に対する意欲的な姿勢が醸成された。
・メーリングリストを活用した授業のサポート	平成〇〇年〇月 ～平成〇〇年〇月	・〇〇大学〇〇学部〇〇学科の教授として担当の「〇〇〇〇論」(専門科目, 〇年次配当, 半期, 必修〇単位)において実践した。 ・教員と受講者全員のメーリングリストを開設・登録し, これを用いて情報提供, 質問, 回答や指導を行った結果, 以下の改善が行われた。 (1) 学習者が課外の学習を行う際に出た疑問点やトラブルに対し, 次の授業まで待たずに質問し, 相談し, 解決することができた。 (2) 初心者共通のトラブルとその解決の共有によって, 他の受講者は同じトラブルを経験せずに済んだ。 (3) 学内のインフォーマルな閉じた電子社会で, 技術的な点だけではなく, 電子社会のマナーやエチケットを身に付けることができた。
(成績評価での取組) ・課題・レポートの活用による学習効果の向上	平成〇〇年〇月 ～平成〇〇年〇月	・〇〇大学〇〇学部〇〇学科の教授として担当の「〇〇〇〇論」(専門科目, 〇年次配当, 半期, 必修〇単位)において実践した。 ・毎時限の最後にレポート課題を含んだ次回講義内容の解説資料を渡し, 次回講義の2日前までに「予習レポート」を提出させた。レポートは3段階で評価し, 講義の冒頭で返却した。これにより学生は目的を持って授業に参加でき, 教員は学生の理解度に配慮した授業設計ができた。レポートを課すグループの試行結果から, 「予習レポート」は教育目標の達成度向上に効果があることが分かった。
(学習に対する支援) ・オフィスアワーの活用による教育効果の向上	平成〇〇年〇月 ～平成〇〇年〇月	・〇〇大学〇〇学部〇〇学科の教授として実践した。 ・シラバスを活用して, オフィスアワーの開設を周知した結果, 毎授業後, 学生が関心を持って, 質問や授業の進め方について, ディスカッションできる環境を構築することができた。その成果として, 学生の授業に対する動機付けが明確になったことが分析結果として得られた。

【記入上の注意事項】

担当授業科目に関連する教育上の能力に関する事項及び職務上の実績に関する事項を年月日順(過去→現在)に簡潔に記入してください。

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

・学部, 大学院における実践例に係る以下の取り組みについて記入。

- 1) 学生が理解するための努力(授業の工夫, 教材開発)
- 2) 新しい事例研究への取り組み
- 3) 授業内容が実務教育に関連する場合の指示
- 4) 新しい学問分野の授業への導入状況
- 5) 小テスト, レポート課題の提出と添削
- 6) マルチメディア機器等の利用
- 7) 学外授業の実施状況
- 8) 卒業論文等の指導, ゼミ合宿等の実施状況
- 9) フレッシュマンセミナーなどの実感教育による教育指導の実践状況
- 10) シラバスに沿うテキストの作成状況, 教科書以外の教材利用

【1)～10)に対応する代表的な事項例】

- 演習・実習の効果的な活用
- 教育におけるE-mail利用
- マルチメディア技術の利用
- 講義内容のWeb上での公開
- 遠隔技術の利用
- 視聴覚教育技術の利用
- 市販教材の活用の工夫
- 体験型学習の導入
- 双方向授業の実践
- ディベート, ディスカッションの導入
- プレゼンテーションの導入
- ティーチング・アシスタントの活用
- 学生の授業評価の活用とそのフィードバック
- その他, 教育効果を高めるための取り組み

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

・学部, 大学院における実践例に係る以下の取り組みについて記入。

- 1) 成績評価方法や評価基準の学生に対する周知状況
- 2) 多様な成績評価の導入状況(レポートや小テストの活用状況及びその機能状況)
- 3) 合理的な成績評価基準の設定

【1)～3)に対応する代表的な事項例】

- 課題・レポートの活用(効果的な題材, 評価方法等, 工夫点について)
- シラバスの活用

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

・学部, 大学院における実践例に係る以下の取り組みについて記入。

- 1) シラバス等による指示の実施状況(予習・参考文献)
- 2) オフィスアワーの実施状況, 学生の利用状況

【1)～2)に対応する代表的な事項例】

- シラバスの活用
- 学生の授業外における学習促進のための取り組み

<p>2 作成した教科書, 教材</p> <p>〇〇学実習画像集</p>	<p>平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇月</p>	<p>①当該教育方法を実践した科目を併記する。 <記入例> ・〇〇大学〇〇学部〇〇学科の教授として担当の「〇〇 〇〇論」（専門科目, 〇年次配当, 半期, 必修〇単 位）において実践した。 ②教材の使用目的, 具体的内容を200字程度で記入す る。 <記入例> ・スライドをCCDカメラで撮影して, コンピュータ上で 供覧できるようにした。この画像集は実習中, 自由に 学生が供覧できるようにし, 希望者にはコピーを許可 した。この画像集と教科書により, 学生は自宅で使用 する標本を見ながら復習することが可能となった。</p>
<p>3 当該教員の教育上の能力に 関する大学等の評価</p> <p>〇〇年度学生による授業評価ア ンケート</p>	<p>平成〇〇年〇〇月</p>	<p><記入例> 平成〇〇年度に実施された授業評価アンケートによれば, 担当科目に対する質問項目全体の肯定的評価の平均値が, 所属学部の平均値(××.×)を大きく上回っていた。とり わけ「授業内容の必要性や位置付けなどの提示」, 「授業 に集中できる環境整備」, 「授業の中での重要なポイント の明示」など多数の項目にあって, 満足度指数が極めて高 く, 総合的な質問項目に関して, 学部および全学の平均値 を顕著に上回っていた。(××.×～××.×)</p>
<p>〇〇年度教育優秀職員表彰</p>	<p>平成〇〇年〇〇月</p>	<p><記入例> 〇〇学部において, 学生の実践力を高める教育として, マルチメディア教材によるインタラクティブな授業を実 施し, 恒常的に学生とのコミュニケーションを図る環境 を整備した結果, 学生の理解度が格段に向上し, 学部所 属の他の教員の模範となるどころが大きくなり, 現在, 〇〇 学部のスタンダード手法となりつつある。この成果に対 して, 本学教育優秀職員表彰要項に基づき, 大学協会の 議を経て, 学長から表彰された。その成果を取り纏め て, 学会へ教育成果論文として掲載され, 大きな反響を 得ている。</p>
<p>4 教育の質の向上及び改善の ための取組</p> <p>「同僚に学ぶ」をテーマとした 「公開授業」の実施</p>	<p>平成〇〇年〇〇月</p>	<p><記入例> 本学におけるFD活動の一環として「公開授業」を実 施した。公開授業後, 授業を参観した同僚教員及び学生 からの意見を踏まえて, 授業改善に繋げている。 具体的な改善の取り組みとしては, 学生の実感的教育を 重視して, フィールドワーク的な要素を多分に盛り込 んだ結果, 学生が授業に対して意欲的に取り組む姿勢が みられるようになった。</p>
<p>5 実務の経験を有する者につ いての特記事項</p> <p>各地の〇〇センター等での〇〇 〇〇に関する講演・セミナー研 修会講師</p> <p>・夏季教育セミナー</p>	<p>平成〇〇年〇〇月 平成〇〇年〇〇月 〇〇日</p>	<p><記入例> これまでの〇〇〇〇研究などの成果・実績をもとに, 全 国各地で講演・セミナーを展開してきた。いずれの講座 も反響が高く, 同一地区で複数回にわたって開催した事 例もあり, 改めて学校経営等に関する見識の重要性が検 証され, 現在も継続的に広くその思考法・手法の普及に 努めている。 <概要> 開催場所, 参加者数, 講演テーマ名及び概要等…。</p>
<p>6 その他</p> <p>・国家試験問題の作成</p>	<p>平成〇〇年〇〇月</p>	<p><記入例> 〇〇〇士国家試験の(分野・領域名称等)出題委員を担 当した。</p>
<p>・特色ある大学教育支援プログ ラム審査委員</p>	<p>平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇〇月</p>	<p><記入例> 特色ある大学教育支援プログラム(グループ1)の審査 委員を務めた。</p>

【記入上の注意事項】

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

- ・学部, 大学院における実績について記入。
- ・作成した教科書, 教材, 講義で教科書として使用している著書, 教材等の概要(後の「著書, 学術論文」との重複も可。その場合, 「(再掲)」と表示)

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

- ・学部, 大学院における評価の状況について記入。
- ・自己点検・評価の一環として, 教育面で高い評価を受けた事実(その事由と評価内容)
- ・採用決定の際等における教育上の能力に関する評価
- ・学生による授業評価, 教員同士の相互評価等をまとめたもの
- ・学外の評価機関等が行った評価
- ・上記以外で学内諸機関等が行った評価(客観性を持ったものについて記載)等

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

- ・学部, 大学院における取組状況について記入。
- 独自の授業に関するアンケートの実施状況
授業評価アンケート結果を分析し, それをもとに授業改善に活用した点
FD講演会, 授業参観, 組織的な取組の中での役割等のFD活動の取組状況
教育改善に関する著書, 学術論文, 研究報告, 講演発表など
(後の「著書, 学術論文」との重複も可。その場合は(再掲)と表示する。)

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。(実務家
教員のみ)

- ・大学から受入れた実習生に対する指導歴(看護・福祉実習, 企業実習等)
- ・企業内教育, 大学公開講座, 社会教育講座の講師としての講義等の概要
- ・上記のほか, 所属機関や関係機関等において行った講義, 講習, 職員・関係者等に対する指導, 海外等における留学, 調査研究経験等を広く記載。

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

- 大学教育改善に関する団体等での活動の概要
(例: 財団法人大学基準協会〇〇系専門評価分科会委員, 日本技術者教育認定機構(JABEE)認定・審査調整委員会委員)
- 国家試験問題の作成
- その他教育上で関連する項目について 等

(その2)

(氏名)

教育活動状況に関する事項	年 月 日	概 要
1 大学院教育への取組 指導学生数 (主査件数)	平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇〇月	<記入例> 修士課程〇〇名 (平成〇〇年：〇名…) 博士課程〇〇名 (平成〇〇年：〇名…)
指導学生数 (副査件数)	平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇〇月	<記入例> 修士課程〇〇名 (平成〇〇年：〇名…) 博士課程〇〇名 (平成〇〇年：〇名…)
主な研究指導テーマ	平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇〇月	<記入例> 修士課程 (平成〇〇年度：「〇〇〇〇に関する研究」) 博士課程 (平成〇〇年度：「〇〇〇〇に関する研究」)
大学院生による研究発表支援 (学会発表等)	平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇〇月	<記入例> 平成〇〇年度第××回〇〇学会において、修士課程2年次 生が「〇〇〇〇に関する研究」の論文発表を行い、最優 秀賞(大学院生の部)を受賞した。
2 教育達成目標とその達成状 況 担当授業科目 「〇〇〇論」, 「〇〇〇論」 「〇〇〇論」, 「〇〇〇論」	平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇〇月	<記入例> シラバスに記載した授業科目の概要と目的に沿って、当 初の授業計画どおり、授業を進行することができた結 果、到達目標に示したとおりの成果に到達できた。 この成果については、学部において検証した結果、本学 部・学科の教育目標「……」に適合しているものと判 断され、教授団としての教育研究の遂行に十分貢献して いると認められた。しかし、授業運営上の反省点も授業 評価アンケートの結果から明らかになっている面もあ り、特に、資料提示の手法やデジタルコンテンツの充実 を図り、知識を可視化し、活きた教育の展開を目指す。
3 その他 (教育活動実績に係って特別に記述したい事項、教育活動について学部等が必要に応じて設定する項目) ・課外活動の指導者としての実績 【〇〇部監督としての実績】 〇〇リーグで活躍していた本学〇〇部において約×年間にわたり、監督して指導していた。 その間、リーグ優勝〇回、準優勝〇回の成績を残した。		

【記入上の注意事項】

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

- ・ 大学院における取組状況について記入。
指導学生数 (修士課程・博士後期課程別)
主査・副査の件数 (修士課程・博士後期課程別)
研究指導テーマ (修士課程・博士後期課程別)
大学院生による研究発表支援 (学会発表等)
その他、大学院教育等の取組状況

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

- ・ 学部、大学院における教育達成目標とその達成状況について記入。
担当授業科目のシラバスに記載した授業科目の概要と目的及び到達目標の検証等
各教員の担当科目に対する教育達成目標の「学部・研究科等の教育目標」への適合
状況
教育目標の達成状況への貢献度、改善すべき点等

学部、大学院における実績について記入してください。

- 学部等独自に設定する評価項目
- これまで記載してきた全ての事項以外の各教員の教育活動実績
- 教育活動実績として、強くアピールしたい内容に関するコメント
 - ・課外活動の指導者としての実績 (スポーツ, 文化学術活動などの全国大会出場など)
 - ・外国人留学生の指導教員としての実績
 - ・教務, 学生, 就職関係の各委員としての活動実績
 - ・指導学生の難関資格取得状況 など
- 教育活動に係る実績の中間成果及びその進捗状況
 - ・教育成果に係る論文の執筆状況 (今後の成果発表・公開予定など)
 - など

(その2)

(氏名)

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
1 資格, 免許 高等学校教諭一種普通免許状 (科目名: ○○)	平成○○年 ○○月○○日	<記入例> 平○○高一普○第○○○号
2 特許等 ○○システム 登録番号 特許第○○○号	平成○○年 ○○月○○日	<記入例> 特許の内容, 本人担当部分, 共同研究者名について明記
3 実務の経験を有する者についての特記事項 事例① 企業研究者の場合 (○○株式会社○○研究所での研究開発) 1. ○○システムの試作・開発 (企業内教育) 1. 若手研究員向け研修会講師 事例② 医師の場合 (臨床歴及び実務歴) 1. ○○県立病院 2. ○○県立療養所○○病院	平成○○年○月～ 平成○○年○○月 平成○○年○月～ 平成○○年○○月 平成○○年○月～ 平成○○年○○月 平成○○年○月～ 平成○○年○○月	○○のシステムを試作・開発した。(以下, 製品内容と本人担当部分について明記。) ○○研究所の専門家の若手研究員研修会で, 「○○」に関する講義を行った。(以下, 講義内容について明記) ○○県立病院において臨床研究 ○○県立療養所○○病院第一内科で内科全般の診療に従事
4 その他 大学公開講座/社会教育講座講師 ・文部科学省: 女性の生涯学習促進事業による○○大学公開講座講師 ・高大連携事業講師 ・出前講義講師	平成○○年 ○○月○○日 平成○○年 ○○月○○日 平成○○年 ○○月○○日	文部科学省補助事業で開催した女性の生涯学習促進のための公開講座で, ジェンダー視点の普及啓蒙のため「○○○」と題して講演した。 ○○県立○○高等学校との間で実施している高大連携事業のうち, 「科目名: ○○」で講師を務め, 高校生の学修意欲を高めることができた。 ○○市立○○小学校において, 「楽しい○○の学び方」をテーマに平易にわかり易く, 実験を交えながら実施した。そのアンケート結果については, 大変関心を持ったとの回答が大半を占め, 好評であった。

【記入上の注意事項】

現在に至る生涯履歴を全て記入してください。

・ 学歴欄に記載されている資格は必ず記載。(学位についても同様。)

・ 担当する教育研究の内容に関するもの等について記入。

国家資格・免許の取得状況

弁護士, 医師, 歯科医師, 薬剤師, 看護婦, 教員等(登録番号も付記)

外国における資格については正確に記入するとともに, その資格の内容について併記

現在に至る生涯履歴を全て記入してください。

・ 担当する教育研究の内容に関するもの等について記入。

特許, 工業所有権等の取得状況

特許, 工業所有権等の登録名称, 登録番号, 概要を記入。

現在, 特許申請中のものについては, 申請状況を記載。

現在に至る生涯履歴を全て記入してください。(実務家教員のみ)

実務経験の記載方法については, 「職歴」欄に記入した事項を中心に, 担当する科目の教育内容に
関係する事項を, 下記の事項等を参考に記載。

① 従事した期間

② 職務の内容

③ 成果, 結果

○ 企業, 官公庁等の研究者の場合

・ 開発した新製品・製法, 作物等の新品種などの概要

・ 大学との共同研究による研究実績がある場合, その概要, 成果, 当該研究者の役割

○ その他, 企業・団体等関係者

・ 国際援助・開発, 先端技術, 国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績

○ 情報技術者関係の場合

・ コンピュータに係る職務歴(職務上のコンピュータ活用法, ソフト・システム開発歴)

○ マスコミ関係者の場合

・ 執筆した記事の概要

・ 作成した番組の概要

○ 医師や看護婦等医療技術者の場合

・ 症例研究会での発表等の活動

○ 福祉その他社会的活動の関係者の場合

・ 参加した活動や団体の名称, 活動内容・期間, 本人の当該活動における地位

○ スポーツ等実技関係者の場合

・ 指導者としての経歴・実績・資格

○ 芸術関係者の場合

・ 作品の概要

○ 博物館, 美術館等関係者の場合

・ 担当した展覧会の概要

・ 執筆・監修した展覧会図録の概要

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る生涯履歴を記入してください。

・ 1～3に該当するもの以外の事項や資料についても, 必要に応じて幅広く記載。

・ 公開講座・講演会等の講師(学内外を問わず), 出前講義等の生涯学習, 高大連携事業, サイエンス・パートナーシップ・プログラム, スーパー・サイエンス・ハイスクールの講師等, 小学校・中学校・高等学校への学習支援事業への参画状況及びその概要

・ 職能団体等の第三者から, 実務家としての卓越性に関して評価・推薦等がある場合
職能団体等の名称, 代表者, 目的, 業務, 評価, 推薦の内容

・ 論文の引用実績 等々

(その2)

(氏名)

研究活動状況に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
著書(1) ○○○○○○	単著	平成○○年○月	○○出版社	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 A○判 全○頁
著書(2) ○○○○○○ (○○シリーズ 第○巻)	共著	平成○○年○月	○○出版社	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 A○判 全○頁 担当部分：第○章 ○○○○ (P○～P○) 編著者：○○○○ 共著者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
著書(3) ○○○○○○	編著	平成○○年○月	○○出版社	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。(P○～P○) A○判 全○頁 担当部分：第○章 ○○○○ (P○～P○) 編著者：○○○○ 共著者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
学術論文(1) ○○○○○○	単著	平成○○年○月	「○○○紀要」 第○巻第○号	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 P○～P○
学術論文(2) ○○○○○○	共著	平成○○年○月	「○○○紀要」 第○巻第○号	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 論文記載：P○～P○ 担当部分：○○○○○○○○ (P○～P○) 共著者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
学術論文(3) ○○○○○○ (博士論文)	単著	学位授与年月	学位授与大学名	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 全○頁(または、「400字詰原稿用紙換算○枚」)
学術論文(4) ○○○○○○ (査読付き論文)	共著	平成○○年○月	○○学会誌「○○○」 第○巻第○号	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 論文記載：P○～P○ 担当部分：共同研究につき抽出不可能 共著者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
その他(1) (翻訳) 原著者 邦訳表題 原語表題	共同	平成○○年○月	○○出版社	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 全○頁 担当部分：○○○○○○○○ (P○～P○) 監修：○○○○ 共訳者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
その他(2) (学会発表) ○○○○○○	共同	平成○○年○月	○○学会第○回大会 (於○○大学)	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 担当部分：○○○○○○○○ 共同発表者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○

【記入上の注意事項】

- 過去5年間の状況を記入してください。現在に至る生涯履歴を記入してください。
(実務家教員については、この限りではありません)
- ①「著書、学術論文等の名称」は、著書、学術論文及びその他の順に適切に区分し、それぞれ年月日順(過去→現在)に、番号を付して記入してください。特に、複数のレフェリーのある論文はその旨を明記してください。なお、年月の表記は、年号・西暦のいずれかに統一してください。
 - ②「概要」には、著書、学術論文等の概要及び頁数について、各著書、学術論文等ごとに明確かつ簡潔に記入してください。なお、共著の場合は、本人の担当部分の概要及び掲載頁(例 P○○～P○○)を明記し、また、本人の氏名を含め著作者全員の氏名を当該著書、学術論文等に記載された順に記入してください。著作者氏名列挙の際は、本人氏名にアンダーラインを付してください。
 - ③共著の場合で本人の担当部分を抽出するのが困難な場合は、その理由を明記してください。(例 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
 - ④また、筆頭論文である場合は、その旨明記してください。
 - ⑤一冊の本を数人で執筆した場合、当該部分は単著であっても共著として整理してください。
 - ⑥学位論文については、その旨明確になるよう記入してください。
 - ⑦発表学会誌等は、その名称の他、巻・号等まで明記してください。
 - ⑧「作曲」に係る業績については、出版の日付と発行所及び初演の日付と会場を記載(再演は不要)してください。
 - ⑨著書・学術論文等は発行済みの業績のみ対象。掲載予定のもの、プログラム等に掲載済みのものでも、未発表である場合は記載しないでください。
 - ⑩外国語で記述された業績であっても、概要は日本語(又は日本語併記)で記入してください。
 - ⑪共著者があまりにも多数の場合、本人を含めた代表的な人を最低10名程度は記載し、残りは「ほか～名」と記入してください。

(その2)

(氏名)

研究活動状況に関する事項			
外部資金の獲得状況			
研究内容	受入先	金額	年月
(1) 科学研究費補助金 「基盤研究」 課題名：○○○○に関する研究	日本学術振興会	0,000,000円	平成○○年○○月～平成○○年○○月
(2) ○○○○研究	○○○○財団	0,000,000円	平成○○年○○月～平成○○年○○月
(3) ○○○○に関する研究	○○○○株式会社	0,000,000円	平成○○年○○月～現在に至る
共同研究の実績			
研究内容	機関名	年月	
(1) ○○○○研究	株式会社○○○○	平成○○年○○月～平成○○年○○月	
(2) ○○○○研究	○○○研究所	平成○○年○○月～平成○○年○○月	
(3) ○○○○に関する研究	○○大学○○学部	平成○○年○○月～現在に至る	
<p>その他 (研究活動実績に係って特別に記述したい事項、研究活動について学部等が必要に応じて設定する項目)</p> <p><記入例> 著書「○○○○○○」を現在執筆中で、平成○○年○○月に出版予定。</p>			

【記入上の注意事項】

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

- ・年月日順（過去→現在）に、番号を付して記入してください。
- ・研究内容ごとに、外部資金の獲得状況を記入してください。

過去5年間の状況を記入してください。現在に至る状況を記入してください。

- ・年月日順（過去→現在）に、番号を付して記入してください。
- ・他研究機関（産・官・学、海外を含む）との共同研究の実績を記入してください。

（研究活動実績に係って特別に記述したい事項、研究活動について学部等が必要に応じて設定する項目）

- 学部等独自に設定する評価項目
- これまで記載してきた全ての事項以外の各教員の研究活動実績
- 研究活動実績として、強くアピールしたい内容に関するコメント
- 研究活動に係る実績の中間成果及びその進捗状況
 - ・論文の執筆状況（今後の成果発表・公開予定など）
- など